第４回岐阜県都市公園活性化懇談会　議事要旨

日時：平成 28 年 7 月 22 日（金）15 時 00 分～16 時 30 分
場所：岐阜県庁　４階　特別会議室

１　開会

○座長

・前回、「各公園の基本コンセプト」について皆様から意見をいただき、４公園共通のコンセプトもあったほうがよいとの意見もいただいた。
・いただいた意見を基に、事務局が共通コンセプト、各公園の基本コンセプトについて再整理を行った。
・今回の懇談会では、コンセプトの再確認と共通コンセプトとして掲げた「清流の国ぎふ回廊づくり」について、皆様には忌憚のない意見の交換をさせていただきたい。

２　事務局説明

○県

・資料に基づき、各公園の取組みについて説明

３　意見交換

○委員

・平成記念公園の名称について、地元住民は「平成記念公園　日本昭和村」という名称に戸惑いがある。「里山」や「匠の技」といったコンセプトを際立たせることで「昭和」が明確になるため、今回のコンセプトの再検討で、「昭和村」のコンセプトがより分かり易いものとなればと考えている。

○県

・平成記念公園の中心のゾーンが「日本昭和村」であり、３つのゾーンにわかれている。３ゾーン共通のテーマは「人と人」、「人と自然との共生」であり、それも含めて全体的に検討していきたいと考える。

○座長

・公園内だけの整備ではなく、清流の国ぎふの回廊として整備し、公園を含めた地域全体が活力ある社会となり、また観光や定住促進等についても機能していけるようにする。

○委員

・養老公園について、健康長寿も良いが園内には「こどもの国」もあり、遠足等にも利用されている。また、１３１回続いている写生大会がある。高齢者や子どもの世代を超えた交流ができ、長寿の願いを持てるような発展的な取り組みをお願いしたい。

○座長

・「命」をテーマの中心軸とし、「子どもがすくすく育つ」ことと、それに関連して、感性の発揮を高めていく「養老天命反転地」によるアート、という構造を作る構想であるということ。

〇委員

・前回の懇談会と比べると、４つの公園の方向性と具体的内容が想像しやすくなった。共通テーマとして、清流の国ぎふの清流が、流域に住む私たちの命を育み、暮らしを支えてきたことが連想される。
・養老公園について、近年のバーチャルリアリティ技術を取り込んで、ＩＡＭＡＳ（情報科学芸術大学院大学、大垣市）との連携により新しい展開を期待できる公園としてはどうか。

〇委員

・各公園のコンセプトの表現の仕方について、当たり前のことを連想できるワードが多いため、使用する言葉をもう少し検討するべきである。

〇委員

・４つの公園の物語をどう紡いでいくかが重要である。
・命や長寿というテーマは、今の時代にも合うと思われる。「清流の国ぎふ」の意味合いを考え、健康、長寿、生きるなど説明するコンセプトがあれば、より説得力のあるものとなる。
・「人道の丘」はあまり県外の人に知られていないため、発信する仕組みも考えられたらよい。

〇座長

・東京で行われていた岐阜県のキャンペーンで「定住のすすめ」があり、美しく生きることができる岐阜県、心の豊かさを実感できる岐阜県、と紹介されている。公園がそういう拠点となれば良いと考える。

〇委員

・外国の人にはこれらコンセプトをどう伝えるのか。そのまま訳したら、自分達が考えている本来の意味は伝わりにくい。それぞれの公園を魅力的なフレーズで表現し、「清流の国ぎふ」を伝えていくところまでいくと、コンセプトを整理することができる。そのコンセプトを基に、次は各公園の重点を置くべき機能等の技術的な面を進めていく必要がある。

〇委員

・コンセプトの裏づけを説明できるようにする。岐阜の資源が各公園のコンセプトの中に詰まっていて、それら資源を連携させていくことが大切。
・花フェスタ記念公園において、ポートランドを例として、花のある暮らしや花と生活との関係がどういう意味を持つのか、今回のコンセプトの中にうまく取り入れられたら良い。
・養老公園は４公園の中で最もインバウンドの可能性がある公園であると考える。アートや滝（自然）、歴史、文化と外国人受けの良い要素が揃っており、養老公園の基本コンセプトで、インバウンドについて触れた方がよいのではないか。

〇座長

・現在の国内観光は「量」で楽しんでもらうスタイルであるが、これからは、一般＋富裕層の人々により深く楽しんでもらう「質」重視のスタイルになると考えている。自分の知識や教養を高めるような場所を求めている。公園においても、ターゲットによって対応を変えていくことを検討したほうがよい。

〇委員

・活発な地域活動グループがあれば、人と人とのつながりや、生きがいの創出につながる。学校が公園のプログラムに入りこんでつながりをつくり活動していくことで、よりよいものが出来ると思う。

○県

・例えば、飛騨周辺の地域の人の話では、観光客に求めることは量より質であるが、エリアによって異なる。岐阜県としてどこにターゲットを絞るかは、各状況に応じて対応していく必要がある。

○委員

・ステップ２で周辺の地域資源をつなぐとあるが、つなぐ手段が明確でない。地域の団体や店に協力してもらい、地域ネットワーク等を利用して充実させるなどを含め、現実的にどうつないでいけるかを考えていく。

○委員

・周遊を促すための施策で、モデルコースを設定しているが、４つの公園が無理やりつながっているように感じられる。若い人や一般の人がどう受けとめるかを検証しながら進めいていく必要がある。

○委員

・地域で催されていることを地域の人が理解し、観光客にも情報を共有する等して、リピーターを増やす仕組み、特にソフト面の充実を図っては。

○委員

・地元の人が地元のことを知らない場合もある中、周遊ツアーの組み方は、公園＋観光地というコースが現実的である。スタンプラリー等による４つの公園ツアーも考えられる。

○座長

・北海道の「シーニックバイウェイ」（景観のよい寄り道）という観光スタイルがある。これは、地域の魅力を道でつなぎながら、個性的な地域、美しい環境づくりにより、主な観光拠点以外の地域を盛り上げようとしている。

○委員

・周遊を促す政策として、映画のロケ地めぐりやアニメのモデルとなった街めぐり、岐阜県出身の小説家とのコラボ小説なども考えられる。

○知事

・それぞれ検討している中で、時間的に着地点を見定めること、「清流の国ぎふ」という岐阜のアイデンティティーとは何かを見定めることが重要だと考える。特に、清流は岐阜をつなぐものであり、歴史や地理、文化、生活等もつないでいる。また、世界農業遺産「清流長良川の鮎」の視点からの岐阜も考えてみてほしい。この議論を終えて、３年から５年のスパンを経て、清流の国ぎふとしての新しい展開を紡いでいこうと考えている。

○座長

・各公園は、当時単体の目的あるいは作ることが目的とされた公園であり、それが今矛盾をきたしていて、必ずしも地域と連携しているわけではない。未来の岐阜に貢献できる公園づくりが必要である。

〇委員

・モデルコースについて、インバウンド戦略としてひとつの地域で濃密な活動や、より長く滞在できるプログラムを検討する。そのプログラムのひとつが公園となれば良いと考える。魅力のあるコンテンツを結び、人を呼び寄せる。

４　まとめ

〇座長

・コンセプトの表現方法について、明確に言い当てるようなものにブラッシュアップを行う。
・中身については、この方向で考えていくことはよいという意見が多かった。
・周遊ルートについて、４つの公園の共通コンセプトをロジックとしてまとまりのあるストーリーに仕上げていきながら考えていく。
・地域連携やネットワークを構築し、ソフト面の政策を充実させるような内容を詰めていってはどうか。

〇知事

・この周遊を促すための施策というのは、周遊ありきからそれ行けやれ行けという整備をやっているので、内外の人の意見も踏まえて、整理したいと思っている。
・外国人にどう伝えるか、端的に英語で言うとどうなるか、結構重要な指摘で、日本語でわかったような気になってしまっている。
・そういうところが多々あるので、事務局として、行政として、ひとりよがりにならないようにいろいろ整理させていただきたい。